

小学校

平成 11 年 度

# 教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

平成11年度

### 教育研究員名簿

地 区	学 校 名	氏 名
中 央	豊 海 小	井 藤 寿 子
新 宿	市 谷 小	中 島 由美子
江 東	豊 洲 小	◎ 木 邨 佳 子
大 田	雪 谷 小	○ 大 野 君 予
練 馬	大 泉 第 四 小	山 本 若 美
足 立	花 畑 西 小	秋 葉 友 江
葛 飾	北 野 小	谷 田 部 利 子
江 戸 川	第 六 葛 西 小	青 木 和 代
立 川	第 八 小	池 田 和 美
武 蔵 野	千 川 小	宮 城 千 明

◎世話人 ○副世話人

担 当 都立教育研究所教科教育部指導主事 倉 持 眞由美

# 目 次

目次と研究の概要	1
I 研究主題設定の理由	2
II 研究の基本的な考え方	2
III 研究の内容	
1 2年間を見通した年間指導計画	
(1) 第5学年の年間指導計画	4
(2) 第6学年の年間指導計画	6
2 2学年にわたって学習する「ものづくり」(ものづくり段階表)	8
3 実践事例	
事例1 高齢者との触れ合いを通してなみ縫いを学ぶ 第5学年「布で作って遊ぼう」	10
事例2-1 家族や近隣の人々とのかかわりを取り入れた「ものづくり」 第5学年「生活に役立つ物を作ろう」	13
事例2-2 異学年交流の学習を取り入れた「ものづくり」(6年生から学ぶ) 第5学年「生活に役立つ物を作ろう」 第6学年「バージョンアップ! 生活に役立つ物を作ろう」	16
事例3 人とかかわりのなかで、思いや願いを大切にしながら学ぶ 第5学年「ぼくもわたしもコックさん、ゆでていたためナイスクッキング」	20
IV 研究のまとめと今後の課題	24

## ＜研究の概要＞

学習指導要領が告示され、新しい家庭科の目指す方向が明らかになった。今回の改訂では、目標や内容を2学年まとめて示していること、題材指定を見直すことなど改善が図られ、各学校での年間計画の作成、題材構成の工夫など創造的な授業の展開が求められている。本研究では「ものをつくる喜び」と「人とかかわる喜び」に視点を当て、子どもたちが主体的な学びをする授業を創造することとした。

そこで、子どもの思いや願い、生活に即した題材構成の工夫を行い、2年間を見通した年間指導計画を作成し、ものをつくることを通して人とかかわる場を設定した問題解決的な学習を行った。とりわけ、第5学年と第6学年で学習する内容の(3)「生活に役立つ物の製作」と(5)「簡単な調理」に関して、ものづくり段階表を作成し、子どもが自分で製作するものを決定できる手助けとなるようにした。

その結果、子どもたちは思いをめぐらす喜び、お互いのよさを認め合う喜び、高齢者とかかわる喜び、つくりあげた喜び、生活の中で活用する喜びを味わうとともに自ら主体的に生活の中の問題を解決していくことができた。

## I 研究主題設定の理由

平成10年7月の教育課程審議会の答申において、家庭科は衣食住やものづくりに関する実践的・体験的な活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解することをより一層重視することが求められている。

一方、科学技術の進歩に加え、核家族化、少子高齢化、地域社会における連帯感の希薄化などの現象が進んでいる。このような社会の変化は、子どもたちの生活に大きな影響を及ぼし、人とかかわりや体験を通じた活動を少なくしている。また、家庭生活の変化も大きく、食べるもの、生活に使うもの全てが豊富になり、安価で簡単に手に入り、子どもたちは、ものをつくる楽しさや喜びを感じる事が少なくなっている。さらに、生活の利便性や経済性を追求するあまり大切な家族との心の触れ合いや人と人とかかわりが弱くなっていることも否めない。そこで、「ものをつくる喜び」と「人とかかわる喜び」を生活の中で実感できる子どもを育てたいと考えた。自分でものをつくる喜びを味わったり、ものをつくることを通して人とかかわる喜びを味わったりすることは、子どもの心を豊かにする。なぜなら、ものをつくることは自分の思いの表現であり、人とかかわることにより自分のよさに気付いたり、他の人のよさや素晴らしさを発見したりすることができる。これらのことにより、子どもは大きな感動と満足感を味わうことができるようになると考え、本主題を設定した。

具体的には、子どもの生活の中の様々な気付きや疑問を大切に、自ら考えたり、調べたり確かめたり、判断したりする問題解決的な学習を通して、子どもに「ものをつくる喜び」と「人とかかわる喜び」を味わわせる授業を創造することで主題に迫る。そして、子どもたちは、このような問題解決的な学習の繰り返しと喜びを味わうことにより、自ら学び続ける力を獲得し、生きる力を身に付けていけるものとする。

## II 研究の基本的な考え方

### 1 ものをつくる喜びと人とかかわる喜び

ものをつくる学習は、生きる力そのものにせまる学習である。子どもたちはものをつくることに意欲的に取り組み、自分の思いや願いを生かす。本研究では、ものをつくるプロセスを重視していきたい。何をつくりたいのか、どこで使いたいのか、どのようにしたいのかなどの思いや願いをふくらませ、子どもにとって本当に必要感のあるものを自分の力で試行錯誤しながらつくることを通して充実感や達成感を味わわせたい。

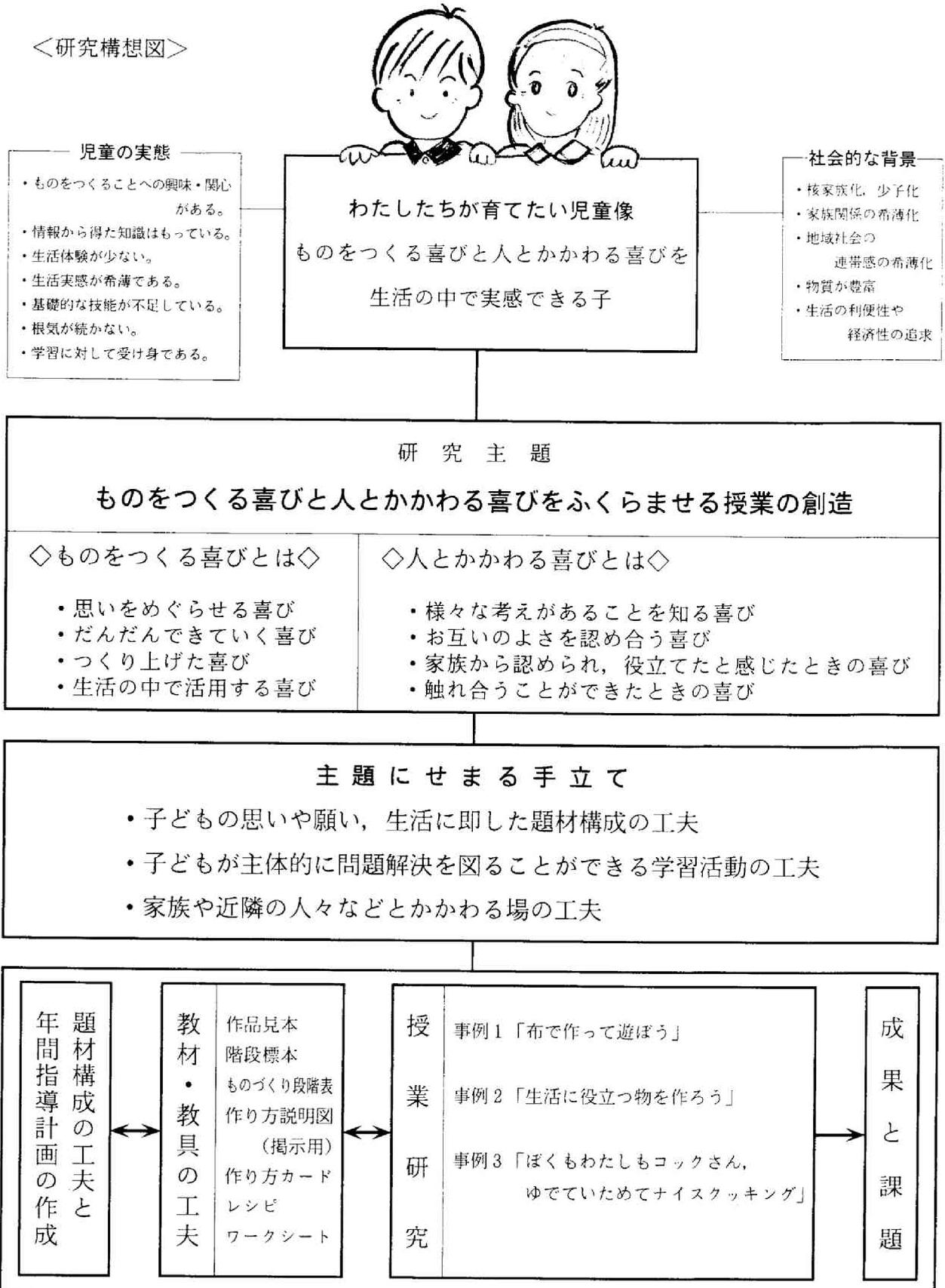
また、ものをつくる学習の過程で、子どもと教師、子ども同士、子どもと家族、子どもと近隣の人々とりわけ高齢者などとかかわる場を設定する。このことによって、子どもたちが自分は身近な人々に支えられながら生きていることに気付き、自分もまた周囲の人々を支えることができる存在であることに気付かせたい。

そこで、本研究を進めるに当たって、ものをつくる喜びと人とかかわる喜びを次頁のように考えていく。

## 2 研究の構想

研究主題にせまるため、次のような構想を立てた。

<研究構想図>



### Ⅲ 研究の内容

#### 1 2年間を見通した年間指導計画

新学習指導要領では、目標や内容を2学年まとめて示している。そこで、子どもの思いや願い、生活に即した題材構成を工夫し、2年間を見通した年間指導計画を作成した。

##### (1) 第5学年の年間指導計画(60時間)

大題材名	題材名	小題材名	時間
今 自分 に で き る こ と	緊急指令！ 探検しよう	家庭科室の秘密を探れ！ —家庭科ってなあに？—	1
	生活ウォッチング ・お茶でもいかが？	家庭の仕事ってどんなもの —わたしにできることってなあに？— (1) おいしいお茶を入れよう 団らんを楽しくする工夫をしよう (2)	3
	針と糸と布と仲よし ・布で作って遊ぼう 事例1	針と糸、これさえできれば！ (5) 布で作って遊ぼう (4) なみ縫い名人に教えてもらおう ※(-2)	9
	ぼくもわたしもコックさん —ゆでていたため ナイスクッキング— パート1 事例3	こんなコックさんになりたい (1) 調理入門—修行の旅— (3) お手軽三角巾を作ろう (2) 食べ物秘密 ※(+2) (1) 調べて試して食べてみよう (2)	9
	移動教室 —リュックの中身はこれでOK—	6年生に教えてもらおう 衣服の着方と、荷物の準備 夏休みに、家でできることは	2
	オリ ジ ナ ル に チ ャ レ ン ジ パ ー ト I	生活に役立つ物を作ろう 事例2	作るものを考えよう (1) どうやったらできるかな？ (2) 6年生に聞いてみよう！ (1) 製作計画を立てよう (1) ミシンと仲よし (4) いよいよ作ろう (8)
ぼくもわたしもコックさん —ゆでていたため ナイスクッキング— パート2 事例3		作るものを考えよう (1) 調理計画を立てよう (1) いよいよ作ろう (2) レストラン開店—シェフの喜びの言葉— (1)	5
あなたはホームズ —調べてみよう快適な住まい—		私はこれを調べ隊 (2) さあ、調べよう (3) 分かったことを、これからに生かそう (1)	6
今 の わ た し	みて みて！ できるようになったよ	できるようになったことは？ (1) 自分の成長や、感謝をどうやって表そう (1) 準備をしよう (4) いらっしやいませ (2)	8

※なみ縫い名人には、「布で作って遊ぼう」か「お手軽三角巾を作ろう」どちらかで来校してもらおう。後者の場合、時数を変更する。

学 習 内 容	内容事項	かかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭には、自分や家族を支える仕事があることを知る。</li> <li>・自分の分担できる仕事を考える。</li> <li>・家族との触れ合いや団らんの大切さに気づき、楽しくする工夫をする。</li> </ul>	(1)ア (1)イ  (1)エ	家族、友達
<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉結び、玉止め、なみ縫い、ボタン付けができる。</li> <li>・製作に必要な用具の安全な取扱いができる。</li> <li>・手縫いで目的に応じた簡単な縫い方を考え、製作する。</li> </ul>	(2)イ(3)イ (3)ウ (3)ア、イ ウ	なみ縫い名人 (地域の高齢者) ※
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計量器の使い方、材料の洗い方、切り方、味の付け方、後片付けの仕方について知る。</li> <li>・包丁の安全な取扱いと、まな板やふきんの衛生的な取扱いができる。</li> <li>・手縫いで調理のときに使う簡単な三角巾を製作する。</li> <li>・栄養的にバランスのよい食事について知り、食べることの大切さを考える。</li> <li>・ゆでたりいためたりして、調理をする。</li> </ul>	(5)イ、カ  (3)ア、イ ウ (4)ア  (5)ア、イ ウ、オ、カ	家族  なみ縫い名人 (地域の高齢者) ※
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生から移動教室の生活等についての発表を聞く。</li> <li>・衣服の動きや、場面に応じた着方を考える。</li> <li>・夏休みの課題をもって、家庭で生かす。</li> </ul>	(2)ア	6年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・布を用いて製作する生活に役立つ物を考え、製作計画を立てる。</li> <li>・試し作りを通して、課題を見つける。</li> <li>・6年生に聞いて、課題を解決する。</li> <li>・製作計画を立てる。</li> <li>・ミシンの使い方を知り、ティッシュペーパー入れ等を直線縫いで作る。</li> <li>・生活に役立つ物を考えて、作り方を調べ、製作する。</li> </ul>	(3)ア  (3)ア (3)ア  (3)イ、ウ  (3)ア、イ、ウ	6年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆでたりいためたりしてできる調理の計画を立てる。</li> <li>・調理実習をする。</li> <li>・盛り付けや配膳を考え、人を招待して楽しく食事をする。</li> </ul>	(5)ア、イ  (5)ウ、オ カ	なみ縫い名人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題をもつ。</li> <li>・整理整頓や清掃の工夫等、身の回りを快適に整える工夫を調べ気持ちよい住まい方を考える。</li> <li>・分かったことを年末の大掃除に生かす。</li> </ul>	(6)ア、イ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの成長を知る。</li> <li>・簡単な調理の学習を生かして、自分を成長させてくれた人々への感謝の伝え方を考える。</li> <li>・調理実習など、準備をする。</li> <li>・お世話になった人を招待し、成長を見てもらう。</li> </ul>	(5)ア、イ  (5)ウ、オ カ	お世話になった人

## (2) 第6学年の年間指導計画 (55時間)

大題材名	題 材 名	小 題 材 名	時間
仕事は わたしにおまかせ	健康を守る食事作りの秘密を探ろう	食事・ご飯とみそ汁とプラスα (1) ここが謎! さあ調べよう (3) 謎を解こうー分かったことは?ー (2) 謎はすべて解けた! (2)	8
	移動教室もおまかせ	わたしのテーマはこれだ (1) 準備と片付けこれでOK (3) 必要なことを調べよう (1) 調べたことを発表しよう (1) さあ、やってみよう (3) こんなことが分かったよ (2) 5年生へ「わたしたち、 行ってきました移動教室」 (1) さあ、わたしの生活に生かそう (1) ー夏休み 1日家族のためにー (1)	12
オリジナルに チャレンジ パートII	バージョンアップ! 生活に役立つ物を作ろう パートII 事例2	5年生の製作を振り返ろう (1) 5年生や友達にアドバイスしよう (1) 製作計画を立てよう (1) さあ作ろう! (8)	11
	ぼくもわたしもコックさん ー買って作って1食分ー	食事作りで考えること (1) 1食分の献立作り (2) 買い物の仕方 (2) 買って作って1食分 (3) 楽しい食事の計画 ー冬休みに挑戦ー (1)	9
	クリーンアップ! マイハウス・マイタウン	アイデアおそうじ ー発見!リサイクルそうじグッズー (4) 家庭や地域の生活環境を考えよう	4
みんなのため 自分のため	ありがとう大作戦	自分の成長を振り返ろう (1) 家族へのプレゼント作りの計画を立てよう(2) さあ、作ろう (5) プレゼントを楽しくする工夫をしよう (1)	9
	これからのわたしたち	2年間の学習を振り返って (2) 今の、これからのわたしたちにできること	2

学 習 内 容	内容事項	かかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>これから調べることの見通しをもつ。</li> <li>みそ汁、米飯などについて、食品の栄養的な特徴や調理の仕方を調べる。</li> <li>調べたことを発表し合い、深め合う。</li> <li>米飯及びみそ汁の調理ができる。</li> </ul>	(4)ア(5)エ  (5)ア、イ エ、オ、カ	家族  友達
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題をつかむ。</li> <li>荷物の整理整頓、衣服の着方等が分かり、目的に応じた着方を考えたり調べたりする。調べたことを発表し合う。</li> <li>日常着の手入れが必要であることを知り、手入れや洗濯ができる。</li> <li>学習のまとめをする。</li> <li>移動教室での衣服の着方等を5年生へ発表し交流する。</li> <li>夏休みに向けて課題をもつ。</li> </ul>	(2)ア  (2)イ   (1)ア、イ ウ、エ	友達    5年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生の生活に役立つ物の製作で学習したことを思い出す。</li> <li>5年生にもものづくりのポイント等をアドバイスする。</li> <li>生活に役立つ物の製作計画を立てる。</li> <li>生活に役立つ物の製作をする。</li> </ul>	(3)ア  (3)イ、ウ	5年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の栄養的な特徴と、調和のよい食事のとり方が分かる。</li> <li>1食分の献立を考える。</li> <li>食品の選び方や買い物を考える。</li> <li>調理の前に買物をし、調理実習をする。</li> <li>冬休みにむけて、食事作りの計画を立てる。</li> </ul>	(4)ア  (4)イ  (7)ア、イ (5)ア、イ ウ、エ オ、カ (1)エ	地域の人
<ul style="list-style-type: none"> <li>住まい方に関心を持ち、リサイクルを利用して、掃除グッズを作る。</li> <li>環境に配慮した家庭生活について考える。</li> </ul>	(6)ア、イ  (8)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長を振り返り、支えてくれた家族への感謝の気持ちをもつ。</li> <li>家族へのプレゼント作りの計画を立てる。</li> <li>プレゼントの製作をする。</li> <li>ラッピング、カード、触れ合いの仕方の工夫を考える。</li> </ul>	(1)エ  (3)ア(5)ア  (3)イ、ウ (5)イ、オ カ	家族 地域の人
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のまとめをする。</li> </ul>	(8)	

## 2 2学年にわたって学習する「ものづくり」(ものづくり段階表)

新小学校学習指導要領解説家庭編では、(3)「生活に役立つ物の製作」及び(5)「簡単な調理」について、基礎的な知識と技能の定着を図り、学習が無理なく効果的に進められるようにするために、2学年にわたって扱うようにすることを示している。そこで効果的な指導ができるように、題材を基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへ、要素的なもの

		生活に役立つ物の製作					
学年		5年			6年		
内 容	★自分の生活に役立つ物 ★基礎的な技能が身に付くもので、数種類の中から児童が課題を選択できる物	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活が便利になるもの</li> <li>楽しい雰囲気をつくるもの</li> <li>使ったり遊んだりできるもの</li> <li>仕事に役立つもの</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活が便利になるもの</li> <li>楽しい雰囲気をつくるもの</li> <li>使ったり遊んだりできるもの</li> <li>仕事に役立つもの</li> <li>家族との交流に役立つもの</li> </ul>		
	★基礎的な技能を身に付けるものづくり 【玉結び・玉止め・なみ縫い・ボタン付け・ミシンの直線縫い・三つ折り・2枚の布の縫い合わせ・縫いしろがある・裏返して縫う等】 ★人とかかわりをふくらませるものづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年で身に付けた技能をさらに定着できるものづくり</li> <li>人とかかわりをふくらませるものづくり</li> </ul>					
製 作 例		←やさしい			難しい→		
	小物作り はりさし マスコットマグネット ポケット ティッシュカバー お手軽三角巾 お手玉 コースター	ナブキン ランチョンマット ふくろ型まくらカバー	クッション(直線) ざぶとん だきまくら キャンディ型クッション	手さげ袋 ショルダーバック(ふたなし) 靴入れ ブックカバー ベンケース	のれん 片ひも袋 きんちやく袋 お弁当箱	ボックスティッシュカバー ナップザック 肩かけ袋 エプロン 三角巾 壁掛けポケット	
手 立	◎実践的・体験的な活動を取り入れて基礎的な技能を学び定着できるようにする。 * 試し作り等をする * 家庭ではどうしているか考える * 繰り返しやってみる 【.....】の部分は、題材針と糸と布と仲よしの製作例						
	◎問題解決的な学習を多く取り入れる。 * 疑問に思うことを見つける * 調べる * やってみる * 繰り返す 【作品見本、段階標本、作り方カード、本等を参考に】						
	◎友達や家族や近隣の人々から話を聞いて学習するなど、友達や家族や近隣の人々とかかわりながら学ぶ。 * 話を聞く * 質問をする * 学習を深める * 成長を認めてもらう * 作る喜びを知る * 人とかかわる喜びを知る						

から複合的なものへと次第に発展するように段階的に配列を工夫し、ものづくり段階表を作成した。

子どもはこの段階表を活用し、自分の思いや願いを生かしながら、自分や家族の生活を見つめて、「本当に必要感のあるもの」「生活に密着したもの」を製作する。このことにより、子どもはつくる喜びや人とかかわる喜びを味わいながら、技能の定着を図っていく。

		簡 単 な 調 理	
学年		5 年	6 年
内 容	★食生活に関心をもつことができるもの	★基礎的な調理の技能を身に付けることができるもの <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切る、ゆでる、いためる調理</li> <li>・盛付けや配膳の工夫</li> </ul> </div>	★食品に関心をもつことができ、多くの食品を食べていることを実感することができるもの ★5年での学習を踏まえ、さらに調理の技能を定着することができるもの <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切る、ゆでる、いためる調理</li> <li>・盛付けや配膳の工夫</li> <li>・米飯やみそ汁の調理</li> </ul> </div>
	★基礎的な技能を身に付けるものづくり 【洗い方・切り方・計量器の使い方 味付け・後片付け・安全・衛生等】 [ ]の部分 ★家族や近隣の人々とかかわりながら学ぶよさが分かる	★5年で身に付けた技能をさらに定着できるものづくり ★家族や近隣の人々とかかわりながら学ぶよさが分かる	
調 理 実 習 例	←やさしい	ゆでる、いためるの範囲で考える	難しい→
	一品料理	生の魚や肉などは扱わない。★ごはんのみそ汁は必ず学習する題材	組み合わせ料理
手 立	お茶いれ	マッシュポテト	ウクワクドキドキスペシャル
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           ゆで野菜（おひたし）            一種類の野菜炒め              └─じゃがいも              └─ほうれん草等            いりたまご            ゆでたまご            粉ふきいも         </div>	ポテトサラダ 茶巾しぼり ★ごはんたき（おにぎり） ★ごはんのみそ汁 ベーコンポテト ★みそ汁アラカルト	クッキング（1食分を作る） スパゲッティ └─ナポリタン └─スープスパ 焼きそば パン └─サンドイッチ └─オープンサンド うどん └─素うどん └─焼きうどん └─ほうとう
手 立	◎実践的・体験的な活動を取り入れて基礎的な技能を学び定着できるようにする。 *試してみる *家庭ではどうしているか考える *繰り返しやってみる [ ]の部分は、題材ゆでて、いためてナイスクッキングの実習例	◎問題解決的な学習を多く取り入れる。 *疑問に思うことを見つける *調べる *やってみる *繰り返す 【食材、レシピ、本、コンピュータ等を参考に】	◎友達や家族や近隣の人々から話を聞いて学習するなど、友達や家族や近隣の人々とかかわりながら学ぶ。 *話を聞く *質問をする *学習を深める *成長を認めてもらう *作る喜びを知る *人とかかわる喜びを知る

## 事例1 高齢者との触れ合いを通してなみ縫いを学ぶ

(1) 題材名 第5学年「布で作って遊ぼう」

(2) 題材の目標

- 布の扱いや特性が分かる。(知識・理解)
- 手縫いの基礎的な技能を身に付け、基礎的な技能を生かそうとする。(技能, 関心・意欲・態度)
- 製作に必要な用具の安全な取り扱いができる。(技能)
- 目的に合った縫い方を考え、作品を製作する。(創意工夫)
- 製作した物を活用しようとする。(関心・意欲・態度)

(3) 研究主題にせまるための手立て

① 子どもの思いや願い, 生活に即した題材構成の工夫

子どもは、手縫いの基礎的な技能を学んだ後で「早く何かを作りたい」という思いがある。また、日本に伝わるお手玉遊びを児童に紹介したところ、「遊びたい」「作りたい」という子どもの声が返ってきた。そこで、これらの子どもの思いを大切に、簡単にできて、しかもしっかりと使える物を作り上げることは、喜びや自信になり、次の作品作りへのステップとなると考えた。

② 子どもが主体的に問題解決を図ることができる学習活動の工夫

子どもの縫いに関する経験には、差がある。家庭科の学習で、初めて針や糸をもつことになる子どもも、主体的に学習に取り組めるように工夫し、意欲をなくすことのないように、学習を進めたい。そこで、生活に役立つ物の製作において、子どもが主体的に問題解決を図るための基となる、手縫いの基礎的な技能を繰り返し学び、身に付けることができるようにした。

③ 家族や近隣の人々などのかかわる場の工夫

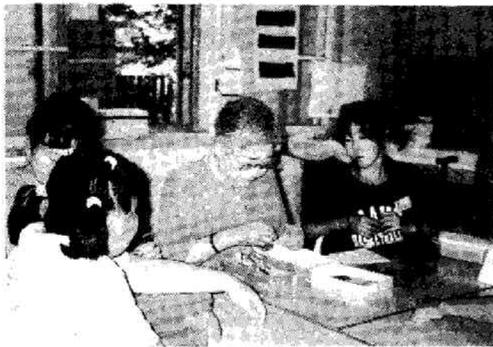
お手玉作りを通して、高齢者から技術を学んだり、温かい心の交流がもてる場を設定することにより、人と触れ合う楽しさ、人とかかわる喜びを味わえるようにした。

また、出来上がったお手玉を使って、家族や友人と遊ぶことにより、新たな人とのかわりが生まれると考える。

名人の玉結びは早い！



(4) 指導計画 『布で作って遊ぼう』(10時間)



一針返してなみ縫いスタート!



いよいよ お手玉作り

学習過程	小 題 材	学 習 活 動	備 考
見 つ め る ・ つ か む	針と糸と仲よし (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○裁縫用具の種類を知る。</li> <li>○玉結び・玉止め・ボタン付け・名前の縫い通りの練習をする。</li> <li>○なみ縫い・本返し縫いを練習し、2枚の布を丈夫に縫い合わせてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裁縫箱</li> <li>・実演用毛糸 針</li> <li>・ボタン 布</li> <li>(教材提示装置)</li> </ul>
解 決 す る	お手玉を作ろう (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お手玉で遊ぶ。(0.5時間)</li> <li>・休み時間に、6年生の技を見る。</li> <li>・教師の遊び方を見る。</li> <li>・グループで自由遊びをする。</li> <li>○お手玉を見て、作り方を考える。</li> <li>◎お手玉をつくる。(2.5時間)</li> <li>○製作順序を考える。</li> <li>・見本を見ながらグループで話し合う。</li> <li>○布を切る (10×16cm 2～5枚)</li> <li>・古布やハンカチで作る。</li> <li>○縫いしろ(1cm)に印をつける。</li> <li>○まわりを縫う。</li> <li>○なかみを入れる。</li> <li>○口をとじる。</li> <li>○1人2～5個つくる。</li> <li>○後片付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1グループに、お手玉5個</li> <li>・お手玉のなかみ(ベレット)</li> <li>・作り方説明図</li> <li>・段階標本</li> <li>・グループごとに、フィルムケース</li> </ul>
生 か す	お手玉を使って遊ぼう (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お手玉で遊ぶ(0.5時間)</li> <li>○お礼の手紙を書く(0.5時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙用紙</li> </ul>

できあがったばかりのお手玉で遊ぼう!

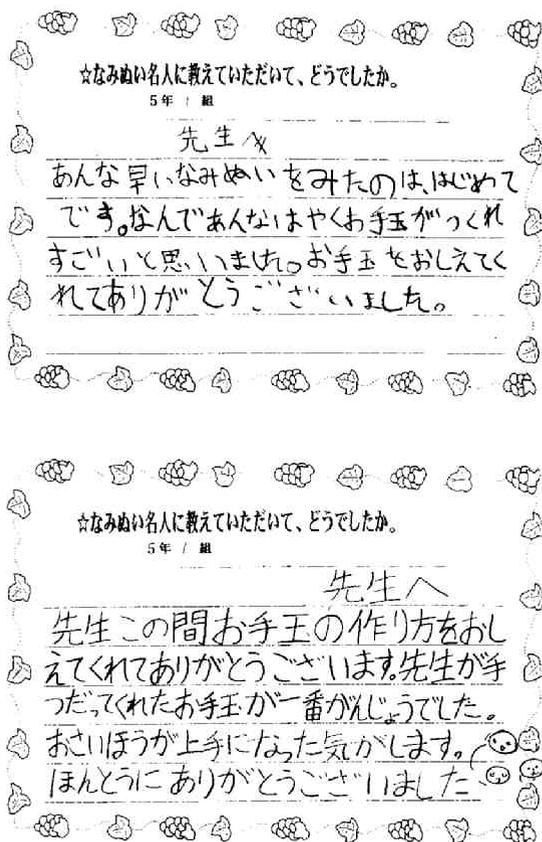


(5) 本時の学習 「お手玉を作ろう」(9/10)

- ① 目標 ○なみ縫いを使って、お手玉を作ることができる。  
○高齢者から学び、仲よくしようとする。

② 展開

学習活動	教師の支援と☆評価	資料・留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なみ縫い名人の紹介</li> <li>・グループごとに、なみ縫い名人がなみ縫いするようすを見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆なみ縫いのしかたをよく見ているか。</li> <li>・縫い方のポイントを提示する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★グループごとに、名札を置く。</li> </ul>
<p>わたしたちも縫ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縫う時に気をつけることを思い出す。</li> </ul>	<p>縫い方のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縫い始めと縫い終りは、一針返す。</li> <li>・細かい針目でまっすぐ縫う</li> <li>・なみ縫いで縫う。</li> <li>・糸こきをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★お手玉のなかみを見せる。</li> <li>・作り方の説明図</li> <li>・段階見本。</li> <li>★高齢者の人には、ていねいな言葉で接するようになる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・名人に、縫い方のポイントができているか。確認してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なみ縫い名人のなみ縫いのしかたを思い出しながら縫うように促す。</li> <li>☆一針返すことと、なみ縫いがまっすぐできたか。</li> <li>☆縫い方のポイントができたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分りにくい場合は、示範をする。</li> </ul>
<p>なかみを入れて口を閉じよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかみを入れる。</li> <li>・口を縫って閉じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆縫いしろをなかへ、押し込められたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★グループごとに、フィルムケース、お手玉のなかみを渡す。(お手玉1個のなかみは、フィルムケース一杯半)</li> </ul>
<p>なみ縫い名人のお話を聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の生活</li> <li>・お手玉遊び</li> <li>○今日の感想をワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆昔の生活には、なぜなみ縫いが必要だったのか気づくことができたか。</li> <li>☆お手玉ができたか。</li> <li>☆高齢者との温かいふれあいがもてたか。</li> </ul>	



(6) 考察

- 子どもの生活には伝承的な遊びの楽しさを味わうことが少ない。そこで、高齢者との触れ合いの場として作り方を学んだり出来上がったものを活用して遊ぶことができるようにした。子どもはお手玉遊びにはとても興味を示し、高齢者から教わりながらお手玉を作ったり、遊んだりすることに意欲的であった。
- 自分のなみ縫いとの違い(名人は、針をまっすぐ進行方向に向けて、右手で針を上下し、左手で布を上下に動かす)に気付き、これまでよりなみ縫いを上手にしようとする意欲も高まり、技能も身に付いてきた。また、お手玉は短時間で作ることができるので、達成感や達成感を感じて、もうひとつ作ろうとする意欲が出やすい。  
手縫いの基礎的な技能をくり返し学び身に付けることは、問題解決していく力になると考える。
- 子どもは、グループごとに名人から指導を受けて、高齢者の方を身近に感じることができた。また、名人の技に接して、高齢者の素晴らしさを感じ取った。高齢者の方も、心をこめて子どもとかかわってくださった。

事例 2 - 1 家族や近隣の人々とのかかわりを取り入れた「ものづくり」

(1) 題材名 第5学年「生活に役立つ物の製作」

(2) 題材の目標

- 布を活用して、自分の生活に役立つものを作ろうとする。(関心・意欲・態度)
- 布の特性に気付き、自分の作りたいものの大きさや形、作り方が分かる。(知識・理解)
- 製作計画を立て、工夫して作ることができる。(創意工夫)
- 製作を通して基礎的な技能を身に付ける。(技能)

(3) 研究主題にせまるための手立て

① 子どもの思いや願い、生活に即した題材構成の工夫

2学年にわたって学習する「生活に役立つ物の製作」について、子どもの思いや願いを中心とした題材構成の工夫を試みた。第5学年では、1学期に基礎的な技能を身に付けることができる「小物づくり」を学習し、2学期は学んだその技能を生かして「自分の生活に役立つ物」を製作することにした。自分の生活を見つめ、振り返り生活に役立つ物に気付き、自分の思いや願いをふくらませて、身に付けている基礎的な技能を生かして製作できるようにした。また製作過程の「縫うときの場面」では、手縫いだけでなく、ミシン縫いも可能にしたいと考え、ミシンを用いて直線縫いをする学習を製作計画と製作の間に組み込むことにした。

② 子どもが主体的に問題解決を図ることができる学習活動の工夫

児童が意欲的に「ものづくり」に取り組むためには、製作の見通しをもたせることが不可欠である。そのためには「問題に気付く」「製作計画を立てる」段階に時間を多く配当し、試し作りなどの実践的・体験的な活動を取り入れた学習をすすめる必要がある。

また、「自分の製作計画を立てることができた」という喜びは、意欲を高め粘り強く製作活動に取り組む力になると考えた。このことにより、本題材における問題解決を図ることができる学習活動を次のようにした。

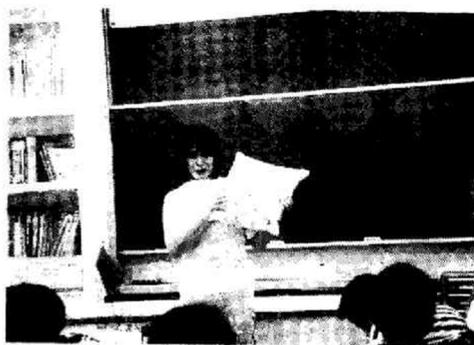
段階	学 習 活 動	支 援
見 つ め る ・ つ か む (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の児童が自分の生活を見つめる。</li> <li>・より自由に思いや願いを生かせる物を自分で決める。</li> <li>・解決方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童作品・見本・段階標本を観察できるようにする。</li> <li>・ものづくり段階表を示し、どの程度の作品が作れるか判断できるようにする。</li> </ul>
解 決 す る (13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作計画を立てる。</li> <li>・計画にそって製作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童作品・見本・段階標本などの資料活用・試作ができるようにする。</li> <li>・グループでの学び合いを行う。</li> </ul>
生 か す (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作を振り返る。</li> <li>・生活に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メッセージカードを書き、作った思いや願いを家族に伝え、製作だけでなく家族との会話を通して製作した喜びを味わえるようにする</li> </ul>

### ③ 家族や近隣の人々などのかかわる場の工夫

人のかかわりが少なくなっている現在、人とかかわるよさを実感させたい。そこで家族や近隣の人々とかかわる中で問題の解決が図れるようにした。特に今回は、ゲストティーチャー（保護者）の話を聞く学習を取り入れた。児童はゲストティーチャーが作った家庭生活で役立っている品物を見ながら、作ったときの家族への思いや願い、工夫したところや気を付けたところなど聞き、生活に役立つ物に気付き、学習意欲を喚起できるようにした。児童は具体的なイメージがもてたり、すばらしい知恵や技術にふれることができたりして、作る喜びとともに温かい心を感じ取ることができる。

### (4) 指導計画（16～17時間）

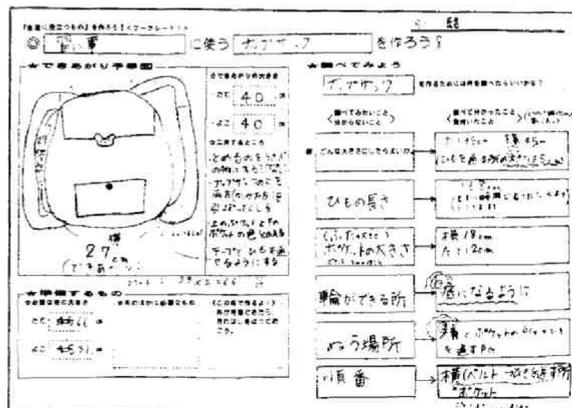
学習過程	小 題 材	学 習 活 動	備 考
見 つ め る ・ つ か む	自分の生活に役立つ物を考えよう (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーの話を聞く。</li> <li>○自分の生活を振り返り、生活の中で布が使われていることに気付く。</li> <li>○自分も布を使って生活に役立つ物を作ろうとする。</li> <li>●自分の生活に役立つ物               <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活が便利になったりする物</li> <li>・楽しい雰囲気を作り出す物</li> <li>・使ったり、遊んだり役立つ物</li> <li>・仕事に役立つ物</li> </ul> </li> <li>○作ろうとする物の出来上がり予想図、工夫するところをワークシートに書く。</li> <li>○作るために必要な材料準備から、製作までの知りたいこと調べたいことを書く。</li> <li>○どのような方法で調べるか考える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・試しに作る・人に聞く・本・資料を見る</li> </ul> </li> </ul>	ゲストティーチャーは保護者 難易度表 生活に役立つ物の見本  ワークシート①(予想図)  見本コーナー
	どうやったらできるかな? (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知りたいこと、調べたいことを確かめる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・試し作りをする。</li> <li>・聞いたことを試作をして確かめる。</li> <li>・本・資料などを見て試作を試みる。</li> </ul> </li> <li>②作るものが似たグループごとに見本などを参考に学び合いをしなから等、個々に作ったり、調べたり確かめたりする。</li> <li>○調べたこと、分かったことを書く。</li> </ul>	試作用布 中に入れる実物 ホチキスはさみ 生活に役立つ物の見本 ワークシート①
解 決 す る	製作計画を立てる (1時間 本時4/17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で考えたこと、よかったこと調べたこと、分かったこと、困ったことを発表する。</li> <li>○大きさ、ぬうところ、ぬい方などを確認する。</li> <li>○製作計画を立て、ワークシートに書く。</li> </ul>	試し作りの作品 ワークシート①  ワークシート②(計画書)
	ミシンができるといいな (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○針を付け、からぬいをする。</li> <li>○上糸・下糸を付け直線縫いをする。</li> <li>○角を曲がる。返し縫いをする。</li> </ul>	ミシン 練習布
	いよいよ作ろう (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画にしたがって作る。</li> <li>①布にしるしをつけ、布を裁つ。</li> <li>②縫う</li> <li>③仕上げる</li> </ul>	布 材料 用具
生 か す	製作を振り返ろう (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使ってみて気付いたことを発表する。</li> <li>○メッセージカードを書く。</li> </ul>	メッセージカード



ゲストティーチャーの話



試し作りをしている



ワークシート①

次年度に異学年との学び合いを取り入れる場合には6年で生かす(p.16参照)。  
できないときは5年で生かす学習をする必要がある。

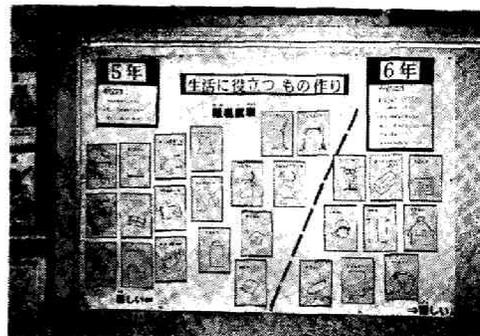
(5) 本時の学習「製作計画を立てよう」(4/17時間)

① 目標

- 自分の作る物の大きさや縫うところ、縫う方法を確認する。
- 製作の見通しをもって計画を立てる。

② 展開

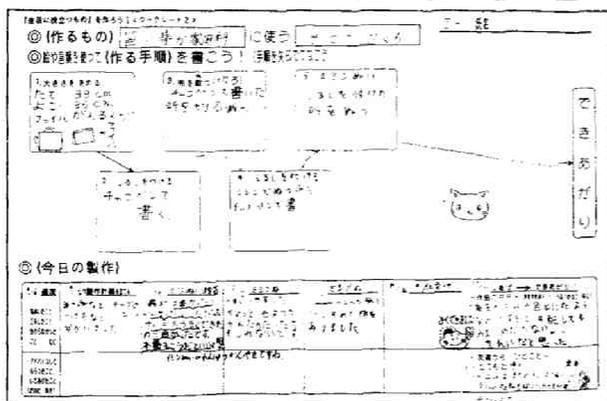
学習活動	教師の支援と評価	資料
<p>調べてみて分かったことを発表しよう</p> <p>○自分で考えたこと、よかったこと、分かったこと困ったこと、失敗したことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の発表を聞き、生かせること、参考になることに気付く。</li> <li>・大きさ、縫うところ、縫う方法を確認し、作り方の見通しをもつ。</li> </ul>	<p>○試し作りの経験や人の話を聞いたこと、資料を見て考えたことなど、分かりやすく説明するよう伝える。</p> <p>○発表から、製作に生かせることを聞きとるよう助言する。</p> <p>・分かりやすく発表することかできたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>・発表を聞いて作品作りに生かせることを、見つけようとしているか。(関心・意欲・態度、創意工夫)</p>	<p>試し作りの作品 ワークシート①</p>
<p>製作計画を立てよう</p> <p>○試し作りの見直し、大きさ、作り方、手順を確認し、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料、その他の準備などを確認する。</li> </ul> <p>○次時のめあてを確認する。</p>	<p>○発表を参考にして、製作計画を立てるよう助言する。</p> <p>・作るものの大きさ、縫い方、見通しをもった製作計画が立てられるか。(関心・意欲・態度、創意工夫)</p>	<p>ワークシート② (計画書)</p>



ものづくり段階表



分かったこと、考えたことなど短冊に書く



ワークシート②



製作計画を立てる

(6) 考察

ゲストティーチャー(保護者)の話を聞くことにより、子どもは作る物の具体的なイメージがもてた。さらに素晴らしい知識や技術、家族への思いや願い、工夫などに触れることができ、人と触れ合えた喜びとともに学習への意欲が高められた。また、グループでの学習もお互いに学び合うことを通して、人とのかかわりが豊かなものになった。

子どもは、問題解決の方法として、資料の活用、試し作り、人とのかかわりなどを工夫し、自ら問題を解決する手立てとしていた。

事例 2 - 2 異学年交流の学習を取り入れた「ものづくり」(6年生から学ぶ)

- (1) 題材名 第5学年「生活に役立つ物を作ろう」  
 第6学年「バージョンアップ! 生活に役立つ物を作ろう」
- (2) 題材の目標  
 第5学年…13ページ参照  
 第6学年…○既習の技能を生かし、自分や家族の生活に役立つよりよい物を作ろうとする。  
 (関心・意欲・態度)  
 ○自分の作りたい物の大きさや形、作り方が分かる。(知識・理解)  
 ○製作計画を立て、手順よく工夫して作ることができる。(創意工夫)  
 ○製作を通して基礎的な技能を身に付ける。(技能)

- (3) 研究主題にせまるための手立て
- ① 子どもの思いや願い、生活に即した題材構成の工夫
  - ② 子どもが主体的に問題解決を図ることができる学習活動の工夫
  - ③ 家族や近隣の人々などとかかわる場の工夫
- } …13ページ参照

第5学年と第6学年の学習を同時期に実施し、友達同士の学び合いによって触れ合う楽しさや人とかかわる喜びを味わえるように、『異学年交流の学習』を設定した。このことにより、第5学年の児童は、前年度に同様の問題解決学習を経験している第6学年の児童にアドバイスをもらうことでよりスムーズな問題解決ができると考えた。一方、第6学年の児童は、第5学年に教えることで既習の学習で身に付いた力を確実なものとして実感できると考えた。

(4) 学習指導計画

① 第5学年 (17時間)

学習過程	小 題 材	時間	主 な 学 習 活 動	資 料
見つめる・つかむ	「生活に役立つ物」を考えよう どうやったらできるかな?	1	} 14ページ参照	
		2		
解決する	6年生に聞いてみよう! (異学年交流の学習)	1	} 14ページ参照	
	製作計画を立てよう	1		
	ミシンと仲良し いよいよ作ろう	4 8		
生かす	製作を振り返ろう		○第6学年「バージョンアップ! 生活に役立つ物を作ろう」の「見つめる・つかむ」段階で扱うため、ここでは扱わない。(次ページ参照)	

② 第6学年（11時間）

学習過程	小 題 材	時間	主 な 学 習 活 動	資 料
見 つ め る ・ つ か む	5年生の製作を振り返ろう	1	<p>○5年生での「自分の生活に役立つ物」の製作について思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使った材料</li> <li>・作り方（手順）</li> <li>・工夫したこと</li> <li>・気付いたこと</li> <li>・困ったこと</li> <li>・難しかったこと</li> <li>・出来上がったときの気持ち など</li> </ul> <p>○実際に使ってみてどうだったか、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使いごこち</li> <li>・手入れ</li> <li>・こわれた所、なおしたい所</li> <li>・よりよくしたい所</li> </ul> <p>○自分が作ったものをなおしたり、手入れしたりする。</p> <p>○生活を見つめたり、家族で話したりしたことなどをもとに、「バージョンアップ！自分や家族の生活に役立つ物」を考え、その出来上がり予想図・大きさ・工夫するところ・製作について分からないことや調べてみたいことをワークシートに書く。</p>	<p>◇5年時の作品</p> <p>◇発表メモ</p> <p>◇ものづくり段階表</p> <p>◇ワークシート1 （5年生のワークシートを簡易化したもの）</p>
解 決 す る	<p>5年生や友達にアドバイスしよう （異学年交流の学習）</p> <p>製作計画を立てよう</p> <p>さあ作ろう</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>8</p>	<p>○5年生での製作について「思い出したこと」「使ってみて気付いたこと」などをグループ内で発表する。</p> <p>○5年生や友達からの質問に、分かる範囲でアドバイスする。</p> <p>○自分や友達の発表、質問したことや資料をもとにしながら。「バージョンアップ！自分や家族の生活に役立つ物」の製作計画をワークシートに書く。</p> <p>○製作計画を修正・確認し、材料を揃えて製作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボックスティッシュカバー</li> <li>・バスマット</li> <li>・だきまくら</li> <li>・エアコンカバー など</li> </ul>	<p>◇5年時の作品</p> <p>◇発表メモ</p> <p>◇ワークシート1</p> <p>◇資料コーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*作り方カード</li> <li>*作り方の本</li> <li>*見本</li> <li>*試作に必要なもの</li> </ul> <p>◇ワークシート2 （5年生と同型式のもの）</p> <p>ワークシート3</p>



② 第6学年 本時の目標

- 5年時の製作「生活に役立つ物を作ろう」を振り返り、学習したことを確認する。
- 「バージョンアップ! 生活に役立つ物」の製作計画を立てる。

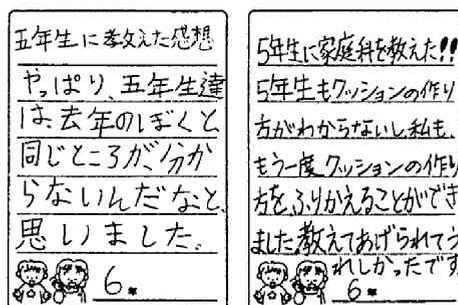
学 習 内 容	教師の支援と評価
<p>＜第6学年＞</p> <p>5年時の製作「生活に役立つ物を作ろう」について発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5年時の製作についてグループ内で発表する。</li> </ul> <p>＜発表の内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*使った材料 *作り方(手順)</li> <li>*作っているときについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫したこと ・気付いたこと</li> <li>・困ったこと ・嬉しかったこと</li> </ul> </li> <li>*出来上がったときの気持ち</li> <li>*こわれた所・直したい所</li> <li>*よりよくしたい所 など</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>5年生からの質問に答えたり相談にのったりアドバイスしたりする。</li> <li>これから自分たちが製作を進めるに当たって分からないことを、資料コーナーで調べたり友達に尋ねたりする。</li> </ul>	<p>—＜評価1＞—</p> <p>5年時の製作について思い出したり考えたりしながら、進んで発表できたか。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>☆思うように発表できない児童に声掛け・質問などをする。</p>
<p>立 て よ う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友達の発表、質問されたことや資料をもとに「バージョンアップ! 生活に役立つ物」の製作計画をワークシートに書く。</li> </ul>	<p>—＜評価2＞—</p> <p>自分や友達の発表や資料をもとに、自分なりに工夫したり応用したりしながら、製作計画に取り組めたか。</p> <p>【創意工夫】</p> <p>☆応用・工夫の方法が分からない児童に資料や友達からの情報を参考にするようにアドバイスする。</p>



クッションのとじ方教えて。



製作計画って難しい…。



交流学習の感想(6年)

④ 考察

第5学年の子どもにとって第6学年の子どもは大変身近な存在であり、製作に関する小さな疑問も気軽に聞くことができた。また第6学年の子どもも、5年時の学習で自分が実際に経験したことをもとにアドバイスすることができるので細かく根気強く教えることができた。

第5学年の子どもは、初めて大きな作品の製作に対する不安がかなり解消でき、第6学年の児童は、既習の学習で身に付いた力を確実なものと感じ、自信がたった。

これらのことより、『異学年交流の学習』は、製作意欲の喚起につながるとともに、問題解決の一方法として有効であると考えられる。

### 事例3 人とのかかわりのなかで、思いや願いを大切にしながら学ぶ

#### 1 題材名 第5学年

「ぼくもわたしもコックさん、ゆでていためてナイスクッキング」

わたしたちの料理ショーのはじまりはじまり

#### 2 題材の目標

- 日常の食事に関心をもつ。(関心・意欲・態度)
- 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な扱いができる。(知識・理解・技能)
- ゆでたり、いためたりして調理をする。(知識・理解・技能、創意工夫)
- 手順を考えて調理計画を立てる。(創意工夫)
- 手縫いによる簡単な縫い方ができる。(技能)
- 裁縫用具を安全に取り扱うことができる。(技能)
- 食べ物を調理するために必要なことを自分なりの方法で学ぼうとする。(関心・意欲・態度)
- 家族や近隣の人とかかわる意味やよさを実践を通して実感する。(態度)

#### 3 研究主題にせまるための手立て

##### ① 子どもの思いや願い、生活に即した題材構成の工夫

「調理をやってみたい」「できるようになりたい」という子どもの思いや願いを出発点に学習内容を組み立てる。よって領域にこだわらず生活に即して、食と衣の生活を一つのまとまりとした題材構成とした。思いや願いを達するためには、さらに子どもが一人一人の課題の解決を目指し、主体的に考え活動を進めていける題材構成とする。

この題材構成は、配当時間が多くなる。そこで、学習の歩みを子ども一人一人が自分なりに料理の本にまとめるようにする。子どもの思いや願いを料理の本にまとめ、自分だけのネーミングをすることにより、学びの流れを一人一人の子どもが実感でき意欲も高めることができる。

具体的には、「こんなコックさんになりたい」という最初の1ページにこの学習ではどのようなことを目指して学習を進めたいか考え、自分はこうありたいという子どもの思いや願いなどめあてを明確にする。最後のページは、「コック長の喜びのことば」とする。

このように学習の「結果」のみでなく、学習者の「プロセス全体」を評価の対象とし、ファイルしながら学習していく「ポートフォリオ」を行った。問題解決力、コミュニケーション力などこれまでのペーパーテストでは計れない評価手段を取り入れ、児童が自らの学習をフィードバックすることも自分の手立てを見つけることもできるようにする。このことにより教師には子どもたち一人一人の学習全体が明確になり、その子だけがもっている特徴や個性が伝わってくる。

また、二学期は、教材園があいているので野菜を育てて実習につかうことを試みた。放課後に自分たちで種を蒔き、水をやり、愛情をたくさんかけた野菜を調理できることは、子どもたちの思いをより深めることができると考えたからである。

調理実習で出た生ごみは、コンポストに入れ、さらに給食の残菜なども加えて肥料をつくり教材園に使用していく。「環境にやさしい調理は、人にやさしい調理」そんな気持ちもも

たせたいと考えた。

② 子どもが主体的に問題解決を図ることができる学習活動の工夫

子どもたちが、自分の疑問を解決するために、人に聞いたり、調べたりしながら考えを深め、確かめたり、判断したりできるような学習を充実させていく必要がある。しかし、調理をするために必要なことをこれまでは、どちらかというと教えてしまうことが多かった。そこで、子どもたちが主体的に考え調理ができるように問題解決的な学習を取り入れた。

③ 家族や近隣の人々などとかかわる場の工夫

子どもが問題を解決していくには誰かに聞いたり、様々なメディアを活用して情報を収集し調べたりするなどの方法がある。子どもにとって身近な存在である家族は、重要な情報源であり、もっとも深いかかわりがあり、触れ合いの原点である。また、核家族化の現在、近隣の地域の高齢者とのかかわりも子どもたちの世界を広げていくために重要であると考え。そこで、本題材では家族とのかかわり、地域の高齢者とのかかわりを重視して学習を進めることとした。

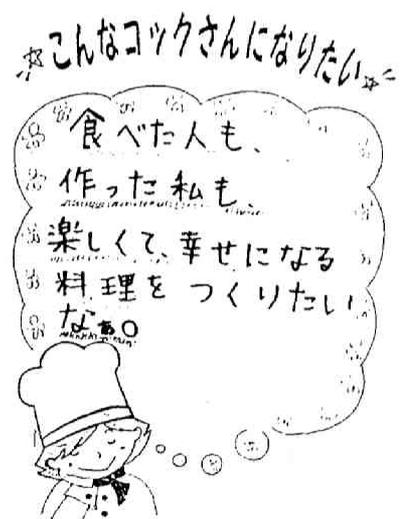
高齢者とのかかわりは、4回設定した。はじめに、なみ縫い名人として「クラスの友達のおばあちゃん」を招き、縫い方のこつなど「技」に直接触れられるようにした。8名の協力者があり、3回の授業と試食会に参加していただいた。さらに、給食も各クラスで食べていただき、子どもたちと温かいひとときをつくるようにした。また、調理ができるようになった様子もみていただいた。

このように、様々な触れ合いの場を設定することにより、人と人との温かい心を感じ取ることができる。

4 学習指導計画（16時間扱い）

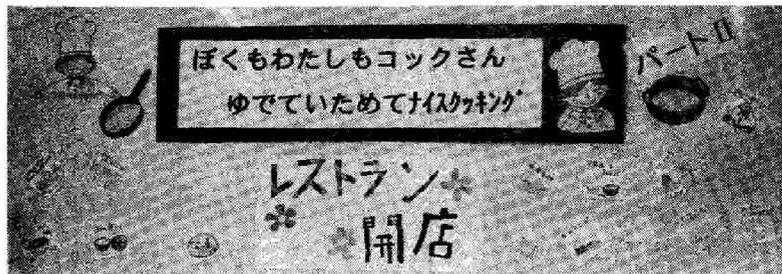
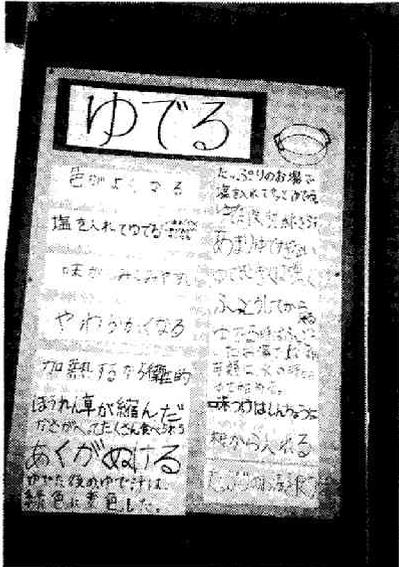
ぼくもわたしもコックさん、ゆでていたためてナイスクッキング  
 …わたしたちの料理ショーのはじまりはじまり…

学習過程	小 題 材	学 習 活 動	備 考
見 つ め る ・ つ か む	ぼくもわたしもコックさん ゆでていたためてナイスクッキング パート 1 こんなコックさんになりたい (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルに学習をまとめていく。ファイルの名前を一人一人きめる。</li> <li>どういうことを目指して学習を進めたいか考える。</li> <li>子どものめあて「自分はこうありたい」と自分の願いを書く</li> </ul>	いため紙ひも 色画用紙 ワークシート1
	調理入門 - 修行の旅 - (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理に必要なことを考える。</li> </ul>	ワークシート2
		<ul style="list-style-type: none"> <li>家族に取材する。家ではどうしているか聞いてみる。</li> <li>計量器の使い方、包丁の使い方、まな板について、ふきんについて、身じたく、計量するもの、洗いや、切り方、味の付け方、後片付けの仕方、衛生について、安全について、フライ</li> </ul>	



<p>解 決 す る</p> <p>お手軽三角巾を作ろう (4時間)</p> <p>食べ物の秘密 (1時間)</p> <p>調べて試して食べてみよう (2時間)</p>	<p>パンについて、など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことをまとめてプリントする。</li> <li>・家に調べたことのまとめたプリントを持っていき家族と話し合いながら付け足す。</li> <li>・縫い物の達人を迎え縫い方を観察し、より上達できるように練習する。</li> <li>・お手軽三角巾を作る。 裁縫用具を安全に取り扱う。</li> <li>・高齢者とかかわり学習する。 各クラスに来ていただく。 給食も一緒に食べていただく。</li> <li>・感想を書く。</li> <li>・食生活に関心をもつ。</li> <li>・食べることの大切さを考える。</li> <li>・ゆでる、いためる調理の基本を考える。</li> <li>・学級園で育ててきた野菜を収穫し、調理する。</li> <li>・実習の生ごみや給食の残菜などをコンポストに入れ肥料を作り材料園に入れていく。(環境にやさしい調理)</li> </ul>	<p>デジカメで 写真を撮る</p> <p>ワークシート3</p> <p>ワークシート4 学級の時間 に種を蒔く コンポスト</p>
<p>生 か す</p> <p>ほくもわたしもコックさん ゆでていたためてナイスッキング パート 2</p> <p>作るものを考えよう (1時間)</p> <p>調理計画を立てよう (1時間)</p> <p>いよいよ作ろう (2時間)</p> <p>レストラン開店 —シェフの喜びの言葉— (1時間 本時 16/16)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶巾しぼりの調理をグループごとに考える。お茶のいれ方も考える。</li> <li>・手順を考え計画を立てる。</li> <li>・招待状を書く。</li> <li>・試食会の計画を立てる。</li> <li>・ゆでる調理をする。</li> <li>・お世話になった高齢者を招待する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様を招待して試食会をする。</li> <li>・調理が出来るようになったことをみんなに自慢しよう。</li> <li>・お客様の話を聞く。</li> <li>・ミシン縫いの練習で作ったティッシュ入れをプレゼントする。</li> <li>・コック長としての喜びの言葉 この学習を終えてファイルの最後のページにコック長の言葉を書く。発表する。</li> </ul> </div>	<p>ものづくり 段階表</p> <p>ワークシート5 さつまいも について調 べる</p> <p>ワークシート6</p>

おはあ5ちゃんにおさいほうの  
任方を教えてもらってわあ、これは  
アロの技だね、思いました。  
昔の人は着物も自分の手でぬって  
というのを聞いてびっくりしました。  
おさいほう達人に教えてもらったので  
私もおさいほうの達人に近づいて  
いこうかなあと思います。

5 本時の学習 (16/16時間)

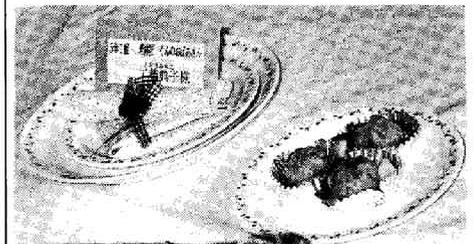
- (1) 小題材名 ゆでていたためナイスクッキング パート2 レストラン開店
- (2) 本時の目標
- 1 自分たちで作った料理をみんなで試食する。
  - 2 調理ができるようになったことを報告する。
  - 3 お世話になった人達に感謝の気持ちを伝え、人とかかわるよさを感じとる。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の支援と評価
<p>みんなでつくった料理を楽しく食べよう</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者が司会をする。</li> <li>・始めのことば (レストラン開店のあいさつ)</li> <li>・お客様の紹介</li> <li>・調理ができるようになったことを報告する。(スライドショー)</li> <li>・試食をする。</li> <li>・お客様の感想を聞く。</li>   <li>・ティッシュ入れをプレゼントする。</li> <li>・コック長としての喜びの言葉を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習が分かるように資料を用意しておく。</li> <li>・数名の方に話していただく。</li> <li>・ミシンの練習で作ったティッシュ入れをプレゼントする。</li> <li>・この学習の終りに当たり、ファイルの最後のページにのせる「コック長としての喜びの言葉」を書くよう伝える。</li> <li>*学習のなにを考え、身に付けたか。</li> <li>*感謝の気持ちもてたか。</li> <li>*人とかかわることのよさが分かったか。</li> </ul>
<p>「コック長としての喜びの言葉」を発表しよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おわりのことば (お礼のことば)</li> </ul>	



パソコン  
スクリーン



ワークシート5



6 考察

子どもたちの思いや願いにそった授業を展開することができた。ひとつの課題を与えると子どもたちの工夫がどんどん広がっていった。自分で調べる学習から始まっているので一つ一つのことを深く考え取り組んでいた。問題解決的な学習の成果である。家族や高齢者とかがかわる場を多くもつことができ、子どもたちは、高齢者との触れ合いに喜びを感じていた。

わたしはこの9月4日の勉強会本当に良かったです。最初は料理のことが少ししかわかりませんでした。それがおばあちゃんたちや家の人のおかげで料理のことがとてもわかりました。ほうれん草を育てた時いつもいつも農家の人はこまをくまして作っているのだなと思いました。三角のひなみねいきて11月11日にやさしく教えてもらったりおばあちゃんたちとふれあたりお言葉が聞けてよかったです。今日はおばあちゃんたちに茶きんじょうを食べさせていただきおいしいという言葉が聞けてとてもうれしかったです。今後またおばあちゃんたちにいろいろな話を聞きたいです。

#### IV 研究のまとめと今後の課題

ものをつくる喜びと人とかかわる喜びを生活の中で実感できる子を目指し、題材構成を工夫し、家族や近隣の人々などとかかわる場を設定していく中で、主体的に問題解決を図ることができるように実践的・体験的な活動を取り入れた授業を行い研究を深めた。

##### 1 研究の成果

###### (1) 子どもの思いや願い、生活に即した題材構成の工夫

ものづくりと人とかかわりに視点を当て、子どもの思いが2年間継続するよう学習内容を劇的にとぎれなく展開していく新学習指導要領に基づいた年間指導計画を作成した。そのために現行の各領域を融合させたり、季節や学校行事を加味したりして身近な生活に根ざした題材構成を工夫し、指導時期や配当時間数を明らかにした。このことにより子どもたちは意欲を損なうことなく思いが生き生きと継続し、次への期待を持ち続けることができた。

###### (2) 子どもが主体的に問題解決を図ることができる学習活動の工夫

① 子どもの思いや願いを生かし、子ども一人一人が課題を設定することができるように教材を工夫した。とりわけ2学年にわたって学習する「生活に役立つ物の製作」と「簡単な調理」の「ものづくり段階表」及び作り方を記した作り方カードやレシピを作成した。他の資料、教材教具との相乗効果も得て自己の意志決定・試作・製作の過程の中で充実感や達成感等のつくる喜びを味わい、児童は自分自身に自信をもつことができた。

② 子ども一人一人の学びの過程が分かるように学習カード等をファイリングしていくポートフォリオを行った。このことにより子ども一人一人の考え、思い、進度に対して教師が支援できた。また、子どもにとっては学習の流れの見通しがもて最後まで粘り強く取り組む力となった。さらに、このポートフォリオが一冊の本となり、子どもはつくりあげた喜びを味わった。

③ 実践的・体験的な学習を意識的に多く取り入れ、基礎的な技能を身に付け定着できるようにした。基礎的な技能は、疑問点を見つけ調べやってみることを繰り返す問題解決的な学習の中でも身に付けることができた。また、子どもの思いや願い、疑問、課題を大切に教材教具を活用した授業を展開したので、子ども一人一人が意欲的、主体的に学習に取り組むことができた。

###### (3) 家族や近隣の人々などとかかわる場の工夫

ものづくりのための情報収集の一方法として、子どもが異学年の児童や家族、近隣の人々から学ぶ場や触れ合える場を設けた。インタビューをしたり、自慢の技能や作品を披露してもらい教えてもらったり、逆に教えてもらった方を招待して学びの成果を見てもらったりと子どもは人とかかわる喜びを味わった。近隣の人々の中でもとりわけ高齢者とかかわりを重視したので、高齢社会の中で共に支え合うことの楽しさも味わった。人とかかわる喜びの中で学びが定着し、さらに学ぶ意欲も継続していった。

##### 2 今後の課題

本研究では、新学習指導要領に対応できるように題材構成の工夫及び年間指導計画を作成した。そこで移行措置期間には作成した年間計画に基づき実践し、さらに改善をする必要がある。また、この研究で得た「ものをつくる楽しさ、人とかかわる喜び」を子どもたちだけでなくかかわった人全てが実感できたことを大切にして、これからの教育活動に役立てていく。